

## 鹿児島の昆虫36

## 恋を叫ぶ虫

昆虫担当 金井 賢一

夏になり、セミが鳴く季節になりました。「ニーイー」と高い音で連続的に鳴くニイニイゼミ、キャンプ場など山手で夕方や朝方に「カナカナカナ」と鳴くヒグラシなどがいますが、鹿児島県で一番多くの人々が聞くセミといえばクマゼミでしょう。公園など、人の生活場所のすぐ近くで発生しています。「シヤシヤシヤ」とけたたましく鳴くクマゼミのせいで、朝6時過ぎには起こされる人も多いのではないのでしょうか。

さて、にぎやかに鳴いているセミですが、これらは全てオスです。鳴き声はメスを呼ぶ

ための求愛の音、つまり、セミは恋を叫んでいるのです。しかし、音を出して目立つということは、カラスなどの敵にも



クマゼミ（奄美大島産）

見つかる恐れも増します。子孫を残すことと自分の身を危険にさらすジレンマの中にある、まさに命懸けの恋なのです。

異性へのアピールというものは、様々な方法があります。昼に飛ぶチョウは羽の模様が強力なメッセージになります。夜の暗闇で活動する蛾などは、フェロモンと呼ばれる匂い物質を用いて、コミュニケーションをとります。ホタルの光も、オスとメスとが出会うための情報伝達手段です。また、いくつかの方法を組み合わせる昆虫もいます。音もその一つなのですね。

長い進化の中で「音によるコミュニケーション」という戦略を用いる生きものたちの生活に思いをはせれば、身近に聞こえる虫の声も、変わった見方で楽しめるのではないのでしょうか。

鳴いているスズメシ  
写真提供) 山下秋厚氏

## 鹿児島の動物27

## ただいま展示中！ナ・マ・ズって!?

みなさん、「口のまわりにヒゲがある」、「黒くて大きい」、「地震を予知するのではないかとされている」とくれば、何という動物でしょうか。そうナマズです。

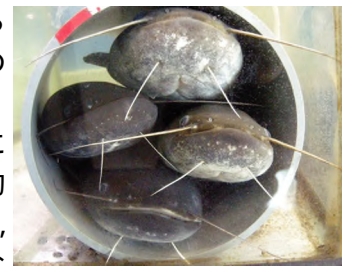
先日、大きなオタマジャクシが近くの川に泳いでいるという情報をいただきました。早速確認に行ったところ何とナマズでした。しかもそれは全長50cm以上で、10匹以上確認できました。今回はこのナマズという魚を紹介します。



採集したナマズ

ナマズは頭は縦に平たく、頭の後ろからは横に平たい形になっています。体色は黒色が多く、なかには黄色や茶褐色の個体もあり、

動物担当 山田島 崇文  
模様もさまざまです。幼魚は上あごに1対(2本)、下あごに2対(4本)のヒゲがありますが、大きくなるにつれ、下あごの1対は消えてなくなり、合計4本になります。基本的に夜行性で、小魚、甲殻類、カエルなどを食べます。



頭の正面から見たところ

漢字では、「鯰」と書きます。頭が大きく、ヌルヌルしている魚にちなむそうです。確かにウロコがなく、ウナギのようにヌルッとしています。案外おいしく、地方によっては天ぷらや蒲焼きにして食べています。みなさんも周辺の川をのぞいてみませんか？大きなナマズをはじめいろいろな生きものを発見できるかもしれません。ただし、安全第一。必ず保護者の方と一緒に行きましょう。また、熱中症にも気をつけましょうね。